

背景・課題

世界農業遺産に認定された能登地域に位置する羽咋市^{はくい}では、水稻生産が盛んで、自然栽培米や有機栽培米、能登米（化学肥料・農薬3割または5割削減）などの環境保全に資する農業を推進している。

近年、水田からのプラスチック被膜殻の流出が問題となっており、羽咋市においても河川等への汚染が懸念され、流出量削減の取組が必要であるため、ペースト2段施肥技術およびプラスチックを利用しない緩効性肥料の導入によるプラスチックの排出削減について検証するとともに、密苗技術の導入による省力化を検証した。

成果目標と達成状況

○成果目標の達成状況

グリーンな栽培マニュアルおよび産地戦略を策定

○取組を通じて得られた成果

- ・プラスチック被覆肥料の使用量を削減
- ・肥料使用量および農薬の使用回数の削減
- ・田植え作業時間、追肥回数の削減による省力化

取組の成果

- ペースト肥料および硫黄コーティング肥料の使用により、プラスチック被覆肥料の使用量ゼロ
- ペースト2段施肥技術の導入および農薬の同時施用により、施肥量および農薬使用回数を最大3割程度削減。また、追肥回数および箱処理剤散布作業が低減され、省力化を同時に実現
- 密苗技術の導入により、田植え作業時間を最大5割程度削減

ペースト2段施肥技術



- ペースト肥料を上段（5cm程度）、下段（9～15cm）に分けて施用することで、
 - ・プラスチック被覆肥料使用ゼロ、追肥回数ゼロ
 - ・根域への集中施肥により施肥量を3割程度削減（窒素施用量4～6→3kgN/10a（コシヒカリ））

密苗技術



- 高密度播種（250～300g/箱）により、育苗箱数を低減し、省力化（箱数18→10箱/10a）

普及に向けた取組

事業での取組を継続し、グリーンな栽培体系への転換を目指していく。ペースト肥料等の技術検証を続けるとともに、本市における効果的な施肥のタイミング等の検討を行い、地域への普及を目指す。



羽咋市

構成員

羽咋市、県羽咋農林事務所、JAはくい、農業者

品目

水稻

栽培マニュアル・産地戦略

グリーンな栽培体系
への転換サポート
| 石川県



<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nousan/eco/gurisapo.html>